

平成23年8月17日

浜田市議会議長 牛尾博美様

議員名 芦谷英夫



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1、期間

平成23年7月31日(日)～8月3日(水)

2、視察先

福島県相馬市、南相馬市

3、調査経費

交通費 (7/31 JR浜松町(東京)～相馬)	10,920円
宿泊費 (7/31 ホテル西山(相馬市))	5,250円
宿泊費 (8/1 岬荘(相馬市))	5,000円
交通費 (8/2 JR相馬～仙台)	950円
宿泊費 (8/2 アパヴィラホテル(仙台市))	7,800円

4、調査研究活動の概要

別紙のとおり



東北震災ボランティア視察報告

芦谷英夫

○日時 平成23年7月31日(日)～8月3日(水)

○視察先 福島県相馬市、南相馬市ほか

【視察の感想】

- 1、相馬市のNPO法人“馬とあゆむSOMA”は国の重要無形民俗文化財の相馬野馬追の被災した馬を保護し飼育する一方、救援物資もボランティアとして取り扱い、話によると救援物資の受入れ拠点(相馬中村神社)があったこと、行政ではできない需給の調整、臨機応変できめ細か柔軟な対応ができ、行政をリードし、行政にない重宝な機能を発揮したとのことである。また救援物資やボランティアなどの申し出は可能な限り対応することが重要で、それらの門前払いは市民の善意の受け口が無くなることになる、という話も出された。
- 2、相馬市長との話では、緊急連絡体制や連絡網の整備、災害弱者の把握と避難・救出作業、初動の情報収集と体制構築などが早い段階で必要となることを学びました。また関連して、避難所の開設手順と責任者を明らかにしておくことがまず必要で、避難所は高台でがけ崩れなどの恐れなし、人材と要員の確保、避難所へ至る道路の状況、電源・水・情報連絡網などの機能が備わっているかなどが重要であり、平素から避難所を集会所などとして使っておくこともスムーズに事が運ぶと考えられる。
- 3、救援物資調達の準備がしてあるか、スーパーやコンビニなどと災害時支援協定が結んであるか、行方不明者の把握などのため住民基本台帳と実際の定住市民などと符合させてあるか、避難所の周知と管轄町内が明確にされているか、住民名簿や要援護者名簿などが整理され必要な支援者などに共有されているか、などが必要である。平素から点検し準備しておくこと、発災後初期に対応すべきことなどを改めて再認識した。

【改めて浜田市で検証すべき事項】

- ① 相馬市ではNPO法人が救援物資の取り扱いを行っていたが、浜田市の場合、ボーイスカウト・無線の会など市民団体やボランティアと平素の連携は図られているか。
- ② スーパーやコンビニなどと災害時支援協定が結んであるか(全てと協定を結ぶことで市域の隅々までカバーできる!)
- ③ 避難の指示や勧告など避難警報体制は全市をカバーしてあるか、防災行政

無線などの不感地域はないか。

- ④ 避難所の場所の周知と避難所管轄町内が明確にされているか。
- ⑤ 避難所は浸水やがけ崩れの恐れはないか、避難所へ至る道路の状況はどうか、避難所の電源・水・情報連絡網などの機能が備わっているか。
- ⑥ 避難所の開設基準や手順と責任者を明らかにしてあるか、避難所ごとに担当者など人材と要員の確保がしてあるか。
- ⑦ 住民名簿や要援護者名簿などが整理され必要な支援者などに共有されているか、避難所ごとの要援護者名簿が整理され情報が共有されているか。
- ⑧ 行方不明者の把握などのため住民基本台帳と実際の定住市民などと符合させてあるか。
- ⑨ 局地での生き埋め、行方不明者があった場合、現地での陣頭指揮は誰がどのように執るのか明らかにされているのか（消防、警察、自衛隊などの指揮系統）。
- ⑩ 東北震災では、学校が避難所の場合、先生など職員に負担がかかっているというような記事があったが、浜田市の場合、学校や公民館を避難所に指定している場合、校長や館長、職員などの避難所での役割はどのようになっているかそれは周知してあるのか。

—以上—